

なつた。奥平は、二人のために、すぐれた学者を先生として世話してくれた。こうして、二人の少年は一心不乱に勉学にはげんだ。

ところが、ここも二人にとつて安心できる土地ではなくなつてきた。会津をぬけ出してきた二人の武士がいるといううわさが広まり、奥平もかくしとおすことができなくなつたからである。二人は越後（今の新潟県新発田市）にある奥平の知人の家にかくまわれた。この家には、土蔵にぎつしり、中国や古い日本の本があつた。二人は自由に読書をすることを許された。健次郎は名前を斯波誠、小川は川島讓蔵と変えていた。

翌年八月、奥平謙輔が東京に出ることになつたので、二人もこれにしたがつて東京に住むことになつた。しかし、まもなく奥平は役人をやめて故郷の長州へ帰ることになり、とうとう別れなければならなくなつた。出発に際して、奥平は二人に、